

評価報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
	合計 30

訪問調査日 平成 19年 5月 12日
 調査実施の時間 開始 10時 00分 ~ 終了 14時 45分
 訪問先事業所名 グループホーム ゆうきの里
 (都道府県) 鹿児島県
 評価調査員の氏名 氏名: 前田和文 氏名: 藤田泰洋

事業所側対応者
 職名 管理者 計画作成担当者
 氏名 米光通子 前原律子
 ヒアリングを行った職員 (3)名

項目番号について

外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目につけます。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価報告概要表

作成日 平成19年 5月12日

【評価実施概要】

事業所番号	4670300526
法人名	鹿屋介護サービスセンター
事業所名	グループホーム ゆうきの里
所在地 (電話番号)	鹿児島県鹿屋市祓川町5204-3 (電話)0994-40-3151

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	2007/5/13

【情報提供票より】(19年3月28日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年 10月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算 6人

(2)建物概要

建物構造	木造モルタル 造り 1階建ての 階 ~ 1階部分
------	-----------------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	800 円		

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	6名	要介護4			
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 79歳	最低	76歳	最高	88歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	池田病院	おばま病院	大隅鹿屋病院辻端歯科
---------	------	-------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿屋市街地から車で約10分位の緑の山々、田園に囲まれ自然豊かな環境に立地し、利用者中心の建物、家庭的な雰囲気を作る花壇には季節の花々が咲いている。運営方針である「利用者の人格を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努める。」を、職員一同で共有し利用者が生き生きとした日常が送れるようにサービスの質の確保に努めている。また近隣の集落、グループホームとの連携も良く、各種季節行事にも参加しサービスの質の向上につながっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題は、勉強会、職員会議でその改善策を検討し、それに基づく取り組みがなされ改善されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	サービスの質の向上に向け、運営者、管理者、職員が協力して、自己評価を計画的に実施し、理念の実現にむけ、今一層の努力に期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、意見交換情報収集に努めている。町内無線放送を取り入れ行事等の確認、事故、災害情報等の収集に活かしている。火災訓練は、地元の消防団の協力で実施している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会を開き、ホームの取り組みを理解してもらい、意義ある意見、苦情等も収集し課題として検討し改善に取り組んでいる。利用者の身体的、精神的变化が、見られた場合は、関係者と随時電話などで話し合い、より良いサービス提供に取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会、近くその他福祉施設との連携も良く、季節的な行事にも参加している。またレクレーションも合同で企画し実施することもある。

評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営推進会議にも、町内会、消防団、包括支援センターの代表も参加し意見を出し、検討し、利用者がその人らしい日常生活を安全に過ごせるよう努めている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝申し送り前に理念の確認をし、申し送りノートを用い利用者の状態を把握をし、理念に基づいたサービスの提供に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会、近くの他福祉施設との連携も良く、季節的な行事にも参加し、また棒踊り、フラダンスなどの慰問を受けるときは、合同で楽しむこともある。農家の方々の、野菜の差し入れもあり、その下ごしらえは、利用者の手伝いをもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日常のサービス向上への課題は、勉強会、職員会議で出し合い、その改善策を検討しているが、評価を生かす具体的なシステムがほしい。		今以上のサービスの質の向上に向け、運営者、管理者、職員が協力して、評価、検討、対策、実施また評価というサイクルの繰り返しを計画的に実施し、理念の実現にむけ、今いっそうの努力に期待したい。
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、町内会、消防団、その他団体の参加を依頼し、意見交換情報収集に努めそれを活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員および包括支援センター職員もゆっくり時間の取れる休日を生かし相談に応じている。協力体制もとれ、その成果が具体的にあがっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者一人一人に主たる担当者をつけ家族に対する近況報告書を毎月郵送している。利用者の身体的、精神的変化が、見られた場合は随時、電話などで話し合い、より良いサービスに取り組んでいる。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を3ヶ月に1回開き、ホームの取り組みを、より理解してもらい協力してもらうために資料を配布し、意義ある意見を収集している。具体的な事例としてオムツの使用を減らす取り組みがなされ成果をみている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	看護師の資格も持ち開設当初から勤務している職員も多く、なじみの顔でサービスを提供できている。新しい職員が、担当する場合は時間をかけ、少しずつお互いが慣れるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当大隅地域は、地域グループホーム協会の活動も盛んで、協会主催の研修会も2-3ヶ月ごとに、開かれ職員は交代で参加し職員会や勉強会の場で発表し、内容を共有している。職場内においても、熟練者と新人との連携もとれ、日々研鑽を積んでいる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会を通じ知り合った他の施設に、積極的に訪問し、レクリエーションの企画等の研修をし、相互のサービスの質向上に役立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用予定者の本人、家族に対し、あらかじめ自宅訪問などを通じ馴染みの関係ができるように努めている。急なサービス開始をせざるを得ないときは、専任担当者をつけ利用者が精神的に安定するように配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、経営理念に基づき常に利用者を敬愛の念をもって接し、日常生活の作業(野菜栽培、漬物作り、食材の下ごしらえ、食器洗いなど)を学び、支え合っている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者一人一人に主たる担当者をつけ利用者の心身の把握に努めている。利用者の意向把握が、困難な場合は、家族や外部協力者にも助言を求め、また業務日誌に記録を残し、職員間の共有化を図っている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員会議は、常に利用者本位のサービスを提供できるかを検討しケアプラン作成に反映させるよう配慮しているが、より具体的な内容の充実したケアプランがほしい。</p>		<p>管理者が、ホーム全体のサービス内容について、客観的に観察チェックできるよう時間及び人員体制をホーム関係者全員の理解と協力で整備し、その後管理者が中心となり、利用者、家族、職員の意見等を細なことまで聴衆し、ケアプランがより内容の充実したものになるよう期待したい。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は、6ヶ月ごとに行われている。サービス担当者会議も定期的に行われている。全スタッフへの情報の共有化が望まれる。</p>		<p>利用者の状態、関係者の要望の変化に応じ随時行い、実情にあった計画書作成がより良いサービスにつながる事は、運営者、管理者、職員が、共通認識をもって日常的に取り組んでいる。今後の充実したサービス提供のため、細かな事でもケアプランに反映させ、文書化して確認、共有化する活動が望まれる。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受信や通院・退院の支援は行っているが、地域密着型の多機能性を活用する状況に至っていない。		地域密着型のサービスを展開する上からも多機能性(地域交流等)の活用について検討することが望まれる。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	歯科を含め、かかりつけの医療機関との連携をとりながら、家族や利用者の希望に沿って、通院・受診の支援をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針は決定しているが、文書化はしていない。最後まで見て欲しいとの家族の要望もあるが、重度化したら、4人の看護職と介護職が協力し、支援の限りを尽くし、終末期は医療機関でとの話し合いをしている。職員はこの方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保については、倫理綱領に規定し、職員に徹底している。利用者の誇りやプライバシーに関しても、ヒヤリハット記録の対象として、互いに研鑽している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事・買い物・散歩など利用者の希望に沿って支援している。野菜作りをしたり、漬物の漬け方を職員に教えたりして自分らしい暮らしができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の希望を聞き、取り入れている。下ごしらえ・調理や後片付け・茶碗洗いなど利用者を支えながら楽しい食事ができるように支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個浴用の浴槽を導入し、個々人の希望に応じて、いつでも希望に応じて入浴を楽しめるように工夫している。生活習慣から、夕方の入浴希望もあるが一人ひとりの希望やタイミングに合わせて支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	犬の世話、新聞読み、食事の準備や後片付け、茄子やじゃがいもなどの野菜作りや、ラッキョー・タカナ漬を作ったり、味噌をついたりと生活歴や個々の力量を活かした支援をして、生活に楽しみや広がりが見られる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自宅訪問、遠方へのドライブ、市営バラ園への小旅行や、日常的なホーム周辺の散歩など戸外への「お出かけ」支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害について、十分認識し、職員による見守りを徹底し、鍵をかけないケアに取り組んでいる。外出傾向が見られたり、外出が起こったときは一緒に散歩するなどの支援をしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議での消防団関係者からの助言で、防災無線も設置し、地域との連携を密にし、協力関係もできている。消防署の立会い・指導の下、春秋2回の防火・防災避難訓練を実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取の状況や、水分摂取状況はこまめに把握し記録されている。献立の希望を取り、一人ひとりの状態や能力に応じ調理方法などにも配慮して支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入りやすい玄関、天井が吹き抜けで高く広びろとしたホールに、テーブルやソファ、植物などがゆったりと配置されている。自然の採光を活かし、音響も程よく調整されている。季節のこいのぼりがホール内に配されて、居心地よい空間となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドや収納棚はホーム側の用意したものであるが、個々人の身体状況に合わせたものとなっている。それぞれ、家族の写真などを貼ったりして工夫をしている。		家族の協力を得ながら個人の使い慣れた物をより多く取り入れ馴染みの居室作りに工夫が期待される。